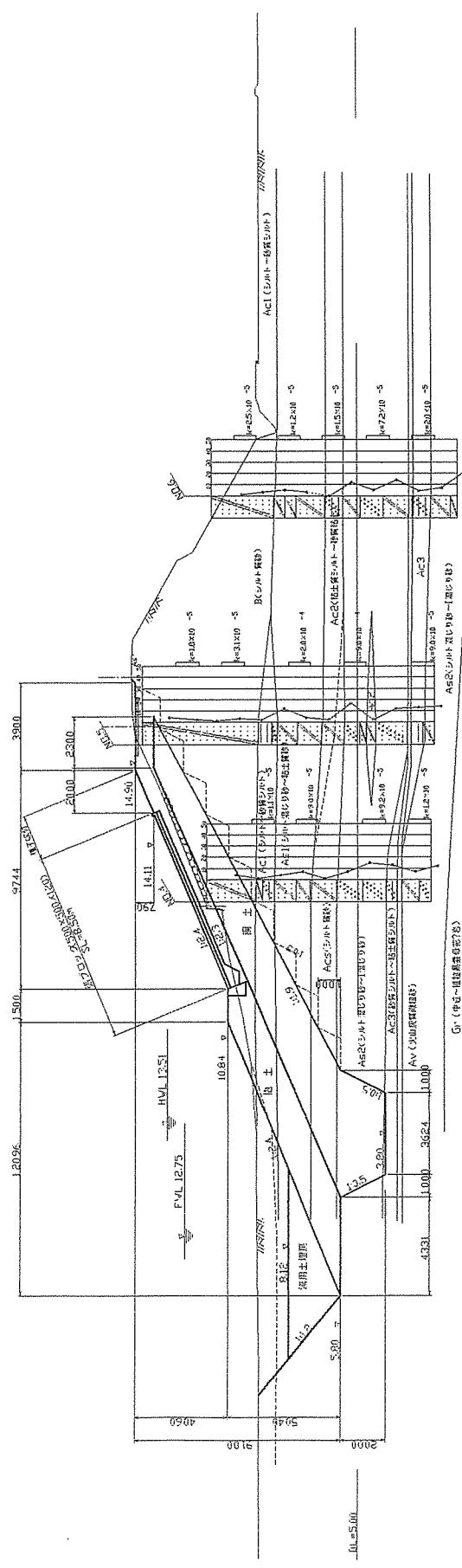
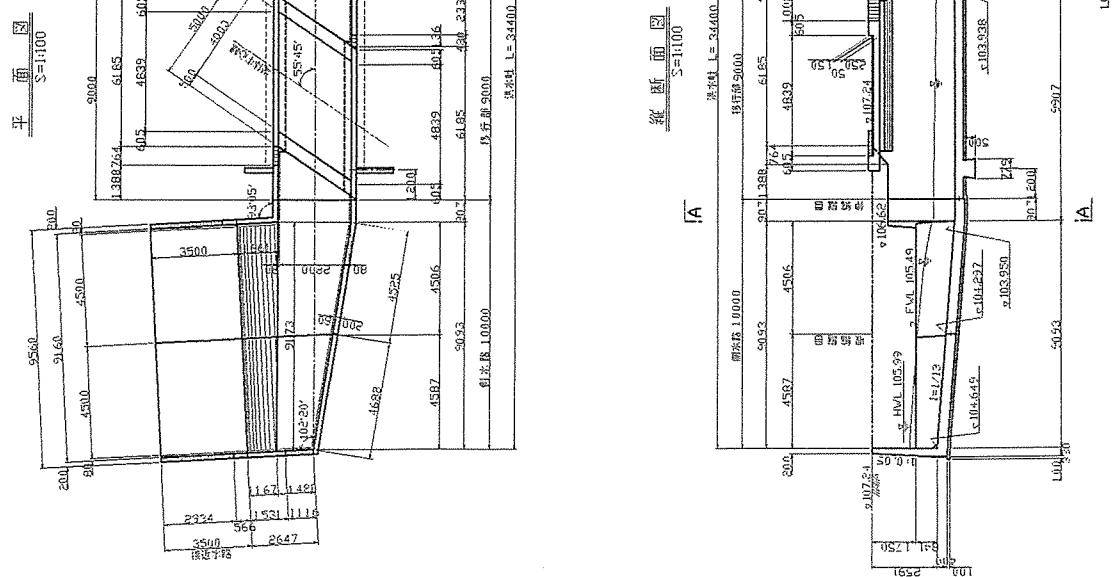


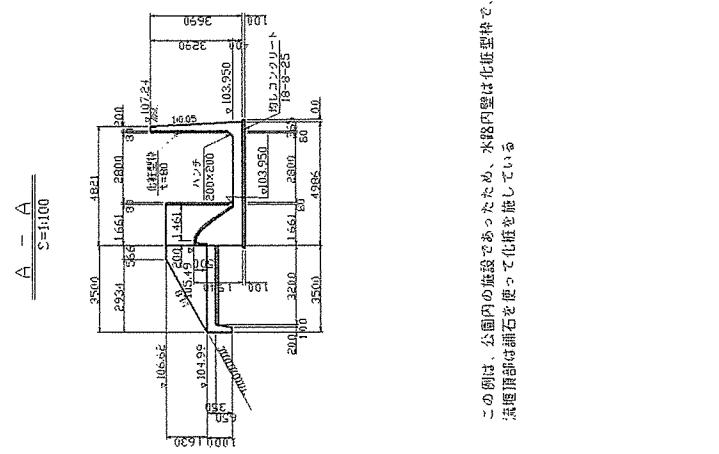
## 前面コアタイプ



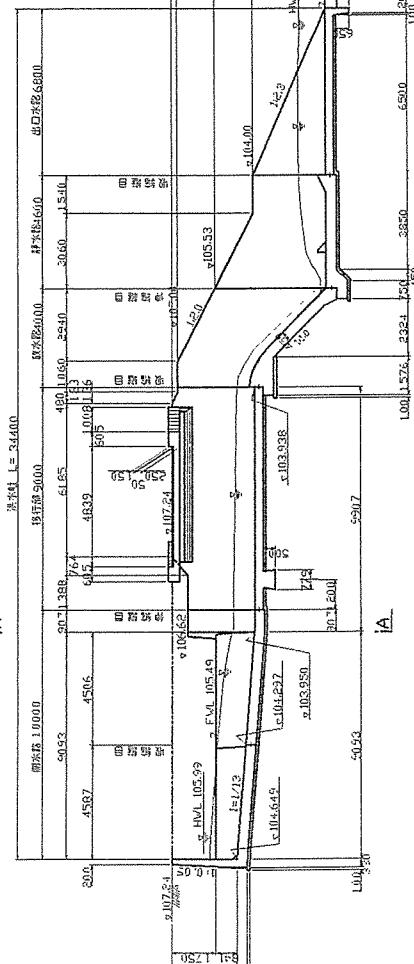
## 側水路式



洪水量が多く、越流堰頭が長くなるときに採用される形式である。一般によりがたい場合は、水理実験等、渦流の安全性を確認する事が求められている。

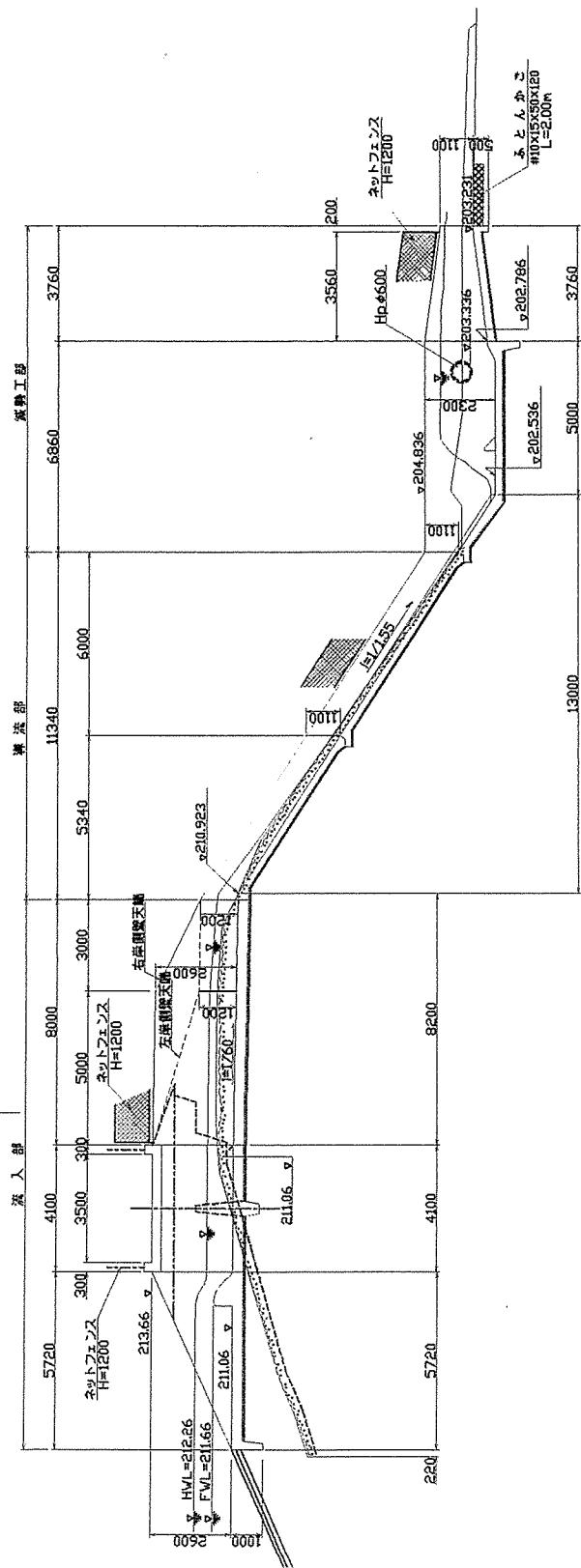


この例は、公園内の施設であつたため、水路内壁は化粧型枠で、溢流堰頭部は護石を施して化粧を施している。



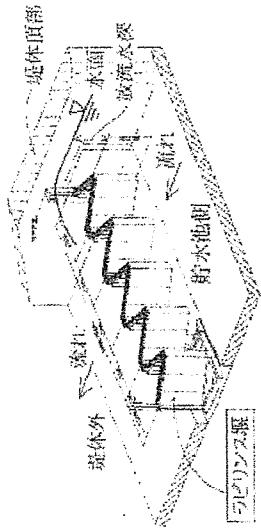
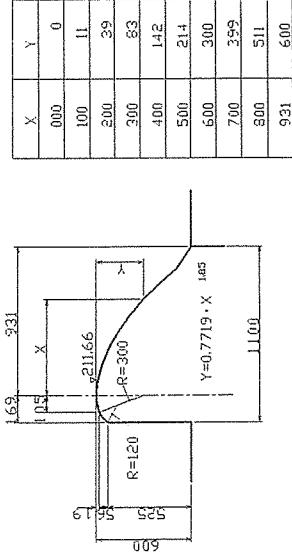
## 越流堰式

図11



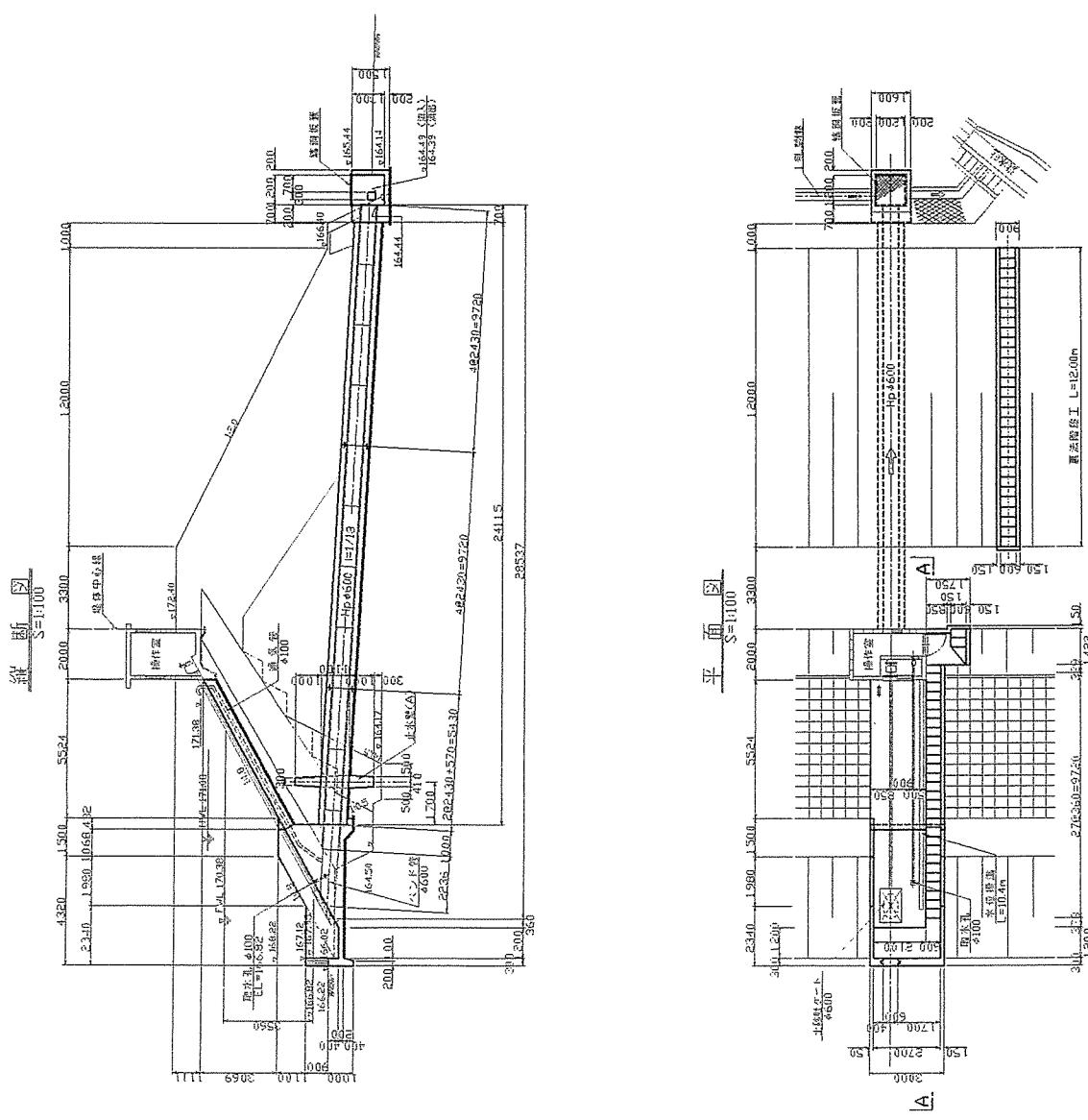
一般によく採用される形式である。越流堰の形状については、水理特性のよいハロルド曲線形形状の堰（下図参照）で設計される例が多かったが、最近では小流量の場合、施工の容易な広頂堰、四角堰、で設計されることも多くなった。また、12年度に発行された土地改良事業設計指針「ため池整備」には越流堰が長くなり、越流能力が高くなり、以後この堰を使用する設計も増加していくものと予想される。

## ハロルド曲線形形状の堰



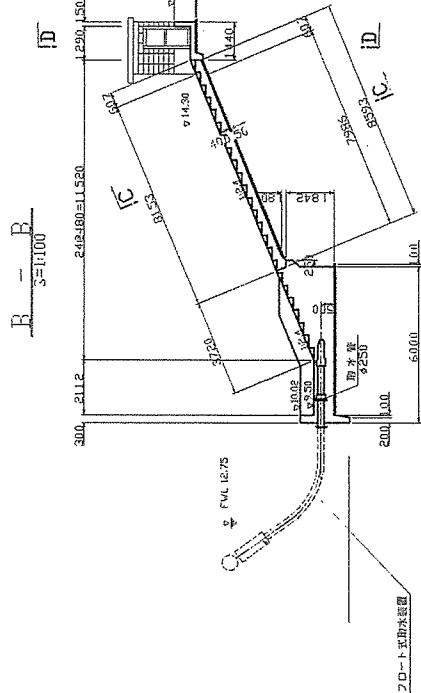
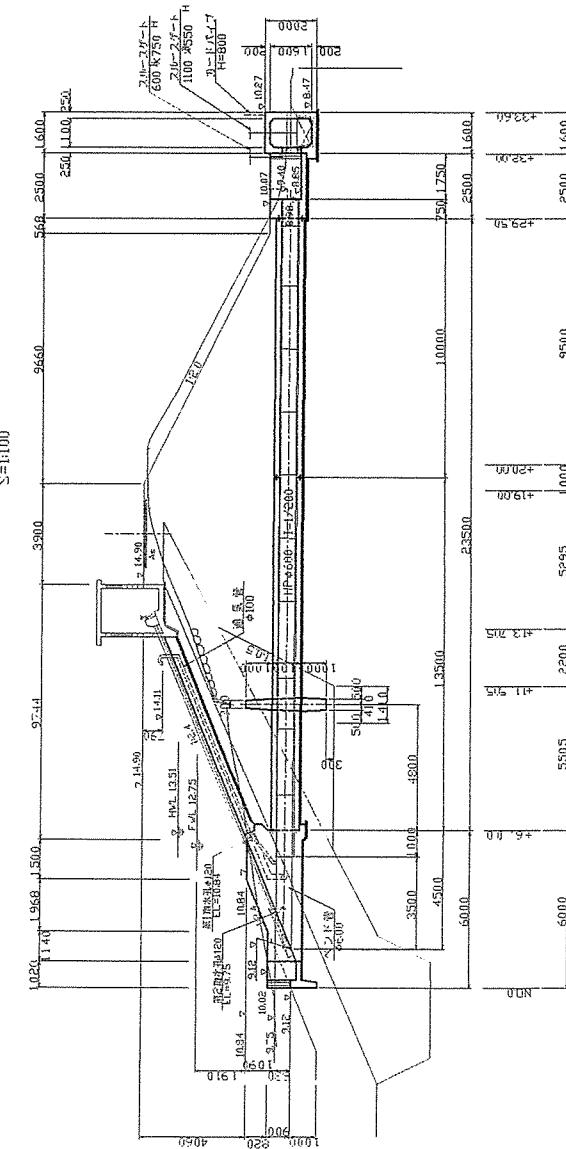
## ラーリング堰

堤防上の操作室で土砂吐ゲートを操作するケース

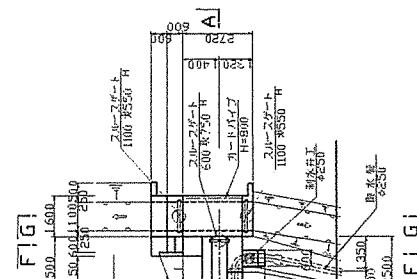
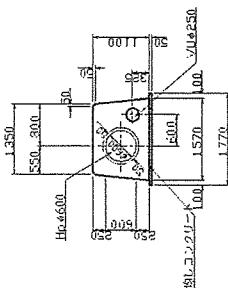


# 斜 構 タ イ ブ

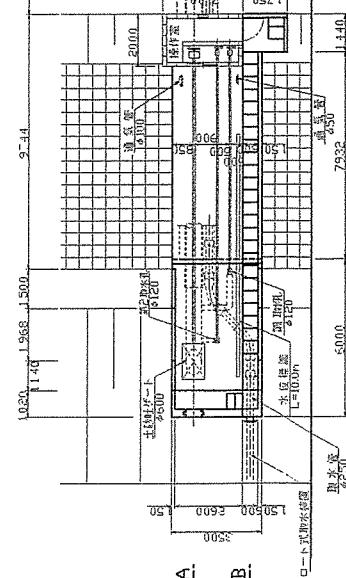
縦断面図(A-A)



底面断面図



底面図



E-G E-G